

夏の富士山頂の一面

藤村 郁雄

よく聞くことであるが“8月のお山は荒れるから、登るならば7月がよい”というのは、恐らく次のような事実からきた言葉ではなかろうか。本邦付近を通過する台風の数回を7月と8月と比較すれば平均して7月が1回乃至2回、これに対して8月が少し多く2回乃至3回になりかつその勢力の強いのが8月に現われ勝であるから、確かにひどく山の荒れるのは8月の方が多いことになる。

しかしながら累年の平均値をみると下表のようになり、それからいくと8月の方が平均して登山に好適である。これは7月には不連続線や低気圧の通過が多いため風も強く雲霧の去来も多くなるというわけである。

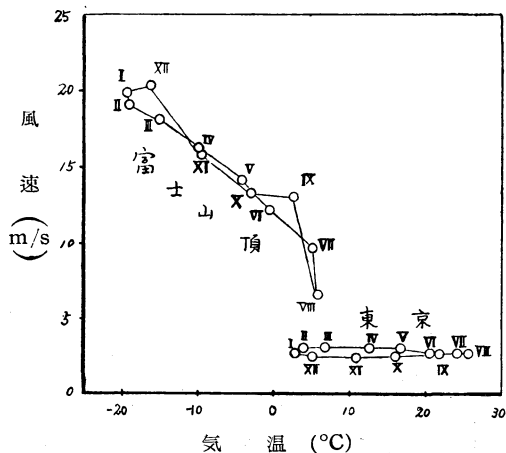
富士山頂の7月と8月の気象比較（17カ年平均）

	気温	最高 気温	最低 気温	風速	曇量	快晴 日数	曇日数	降水 日数	濃霧 日数
	°C	°C	°C	m/s					
7月	5.1	8.3	2.0	10.2	7	3	16	20	22
8月	5.9	9.4	3.3	9.0	6	6	10	16	16

それでは、一体我々が登山するに当ってどのような時期を選んだらよいだろうか？ 山に登るからには誰でも登山が快的かつ展望もよくきくことを望むはずであるから、その意味で私は次のように答えよう、“8月半頃から9月にかけてがよい、ただしその頃になったら台風情報を聴いて3日間位の安全が認められた時に決行するがよい”。

7月の前半はまだ天候が定まらず、下旬になってよう

富士山頂と東京のクリモグラフ
(風速と気温による)



やく安定して来るので好晴の可能性も増して来、それに台風の本盛期にも間があるというので、この頃は登山者が殺到するが、これはまた諸学校の夏季休暇に入った直後の機会でもあるので自然登山シーズンに拍車がかけられることになるのであろう。

しかしながら、若しも人あって、標高 3776 m の日本の頂点に立ち、あくまでも澄みきった大気を胸一杯に吸いつつ十三州を一瞬に収める快さを満喫しようとするならばよろしく台風通過後の機会を目指して登頂すべきであらう。

終戦後は外人の登山が順に増加したが今から 20 年前と比べると、登って来る外人は少かった。そして私共が感心したのは、もう一般の登山者のシーズンが済んで山小屋も全部しまった9月になって、よく婦人を交えた外人のパーティーが登頂して来たことである。世の流行とは別途に、実質的にほんとうによい機会をうかがって登るには外人の方がかえってのびのびと計画出来るのかも知れないと思った。

これは余談であるが、私が北アルプス、鳥海山、羊蹄山また男阿寒岳へ登ったのはいずれも8月の下旬であった、そして幸運にもそれがどこでも好晴に恵まれた静かな(人工的にも)よい山登りの思い出ばかりである。

年中富士山に登降しているものにとって夏は全く“賑やか”の一言につきる、しかしそれはそれで矢張り人間として心楽しいことでもある、そしてまた天候も最も緩和された凌ぎよい季節でもある。

8月15日、富士山浅間神社奥宮の例祭の太鼓がトウトウと頂に鳴り渡ると森厳な気が自ら胸奥にみなぎって来る。この頃になるともうお鉢廻りの登山者はほとんど見えなく僅かに山小屋の辺りに二人、三人と逍遙しているだけで一層の閑寂境となってしまう。

山に住む私共に、季節の動きが最も深く身内に響いて来るのは春から夏にかけての躍動と、もう一つは秋に入って急激に沈静へと落ち込んでいく寂寥感であらう。

試みに、山頂と東京の比較をクリモグラフによって示せば附図の通りである。これによって富士山頂の冬がいかにきびしいものであるかを御想像願うと同時に、その温度や風速の年間変動の大きさ、従ってまたそこに住む者は夏(7, 8月)に入る直前までと夏がすんだ直後(9月)とに平地とは比較にならぬ程急激な変化を受けるものであることをお判りになると思う、そこでは否でも応でも身体は一日ごとの強い気温上昇と風速弱化を経由させられ、夏が済めば、今度はつるべ落しの冷却と風速強化を強制させられるものである。これ等の間に位した峠とでもいふべき富士山頂の夏は、のしかかって来る雄大な入道雲と尖端放電の景物を添えて、むしろ一時の休息期でもあるというべきか。

(富士山測候所)